

第3期習志野市国民健康保険データヘルス計画・
習志野市特定健康診査等実施計画(第4期)(案)概要

第1章 計画策定にあたって

計画策定の背景・趣旨

データヘルス計画とは、保険者が持つレセプト等の健康・医療情報データを分析し、被保険者にとって効果的な保健事業を実施するための計画です。被保険者が抱える健康課題は地域特性や年齢構成などによって異なることから、本市のデータを分析することで幅広い年代に及ぶ被保険者の身体的な状況に応じた健康課題を捉え、課題に応じた保健事業を実施することで、健康の保持増進、QOL、いわゆる生活の質の維持及び向上を図り、医療費の適正化に資することを目指します。

なお、データヘルス計画には高齢者の医療の確保に関する法律第19条に基づき市町村が策定する特定健康診査等の実施に関する計画を組み込んでいます。

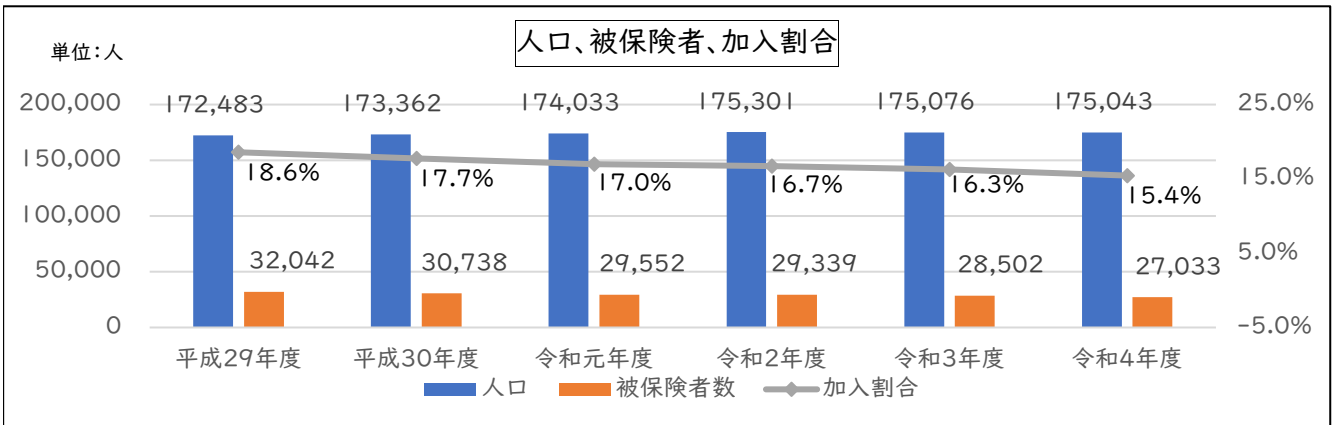
第3期習志野市国民健康保険データヘルス計画
習志野市特定健康診査等実施計画(第4期)

計画の期間

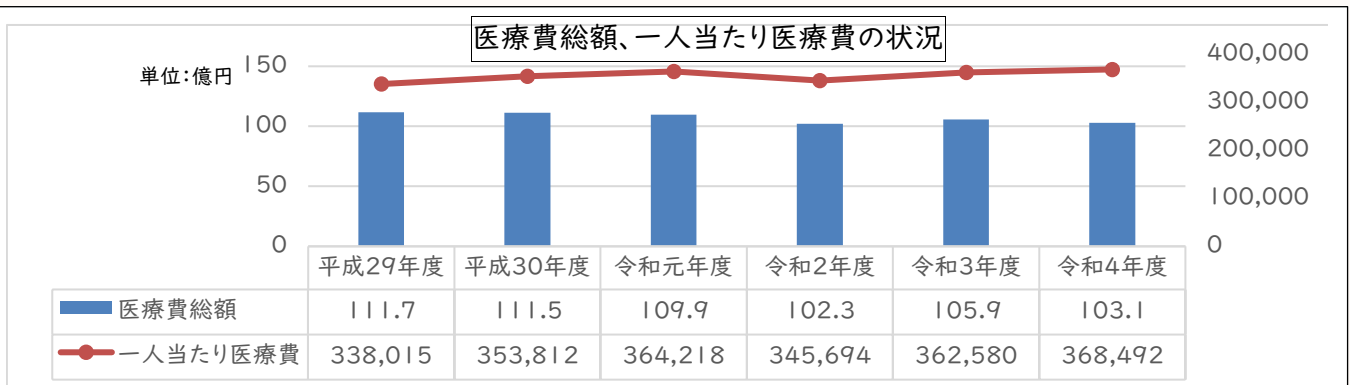
令和6年度から令和11年度までの6年間

第2章 被保険者等の現状把握

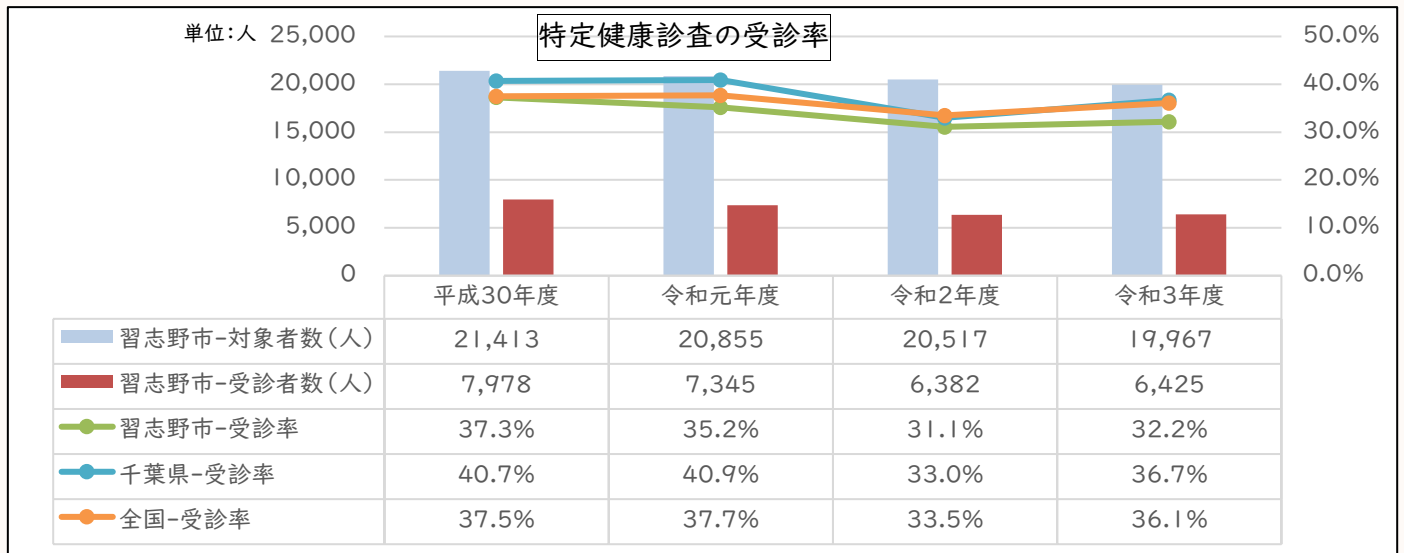
分析の一部抜粋



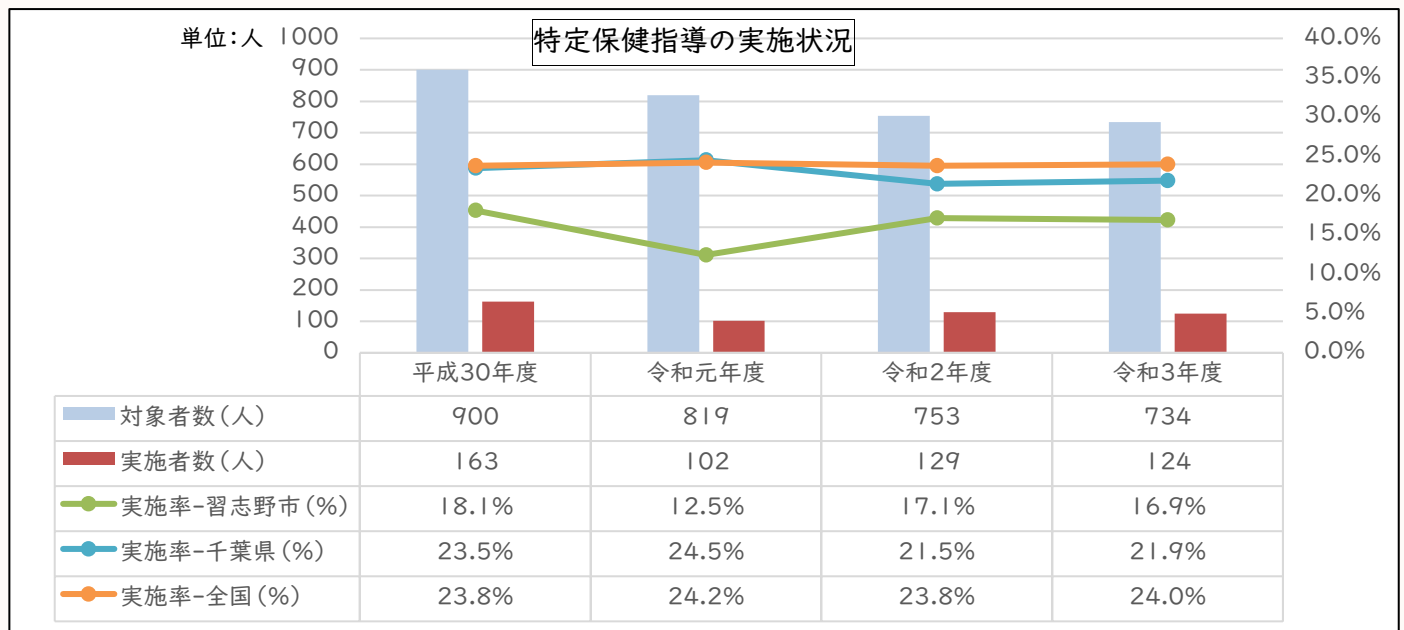
⇒習志野市の人口は横ばい傾向だが、国民健康保険の被保険者数・加入割合は年々減少



⇒医療費総額は年々減少傾向にあるが、一人当たり医療費は増加傾向



⇒コロナ禍により低下、千葉県・全国平均よりも受診率が低い状況が続いている



⇒特定保健指導の対象者は年々減少しているものの、実施率は千葉県や全国より低い状況が続いている

第3・4章 保健事業の実施状況と前期計画等による考察、前期計画を踏まえた健康課題の抽出

特定健康診査事業	○受診率が目標値(40%)に未達	○未受診者、特に40-50歳代への受診勧奨が必要
特定保健指導事業	○実施率が目標値(23%)に未達	○40-64歳男性の実施率が低く、実施方法の工夫が必要
生活習慣病	○受診勧奨域の対象者割合が高い	○慢性腎臓病(透析あり)の医療費負担が大きい
重症化予防事業	○血圧、血糖の有所見者割合が高い	○「血圧」「血糖」の有所見者に対する重症化予防が必要
生活習慣病	○健康教育実施校数が未達	○糖尿病発症リスクが高い人に対して発症予防が必要
発症予防事業	○糖尿病は医療費負担が慢性腎臓病(透析あり)に次いで2番目に大きい疾病	
歯科保健事業	○歯科検診受診者の66.1%が進行した歯周病、33.1%が未処置歯数1本以上	
	○年齢があがるとともに歯科疾患も重症化	
	○歯の喪失は全身の健康に関与するため若い世代からの取り組みが必要	
その他の保健事業	○調剤費の割合が千葉県、全国と比べて高い	○がんの死亡率が高く、がん検診受診率も目標(50%)未達、検診受診率向上のための取り組みが必要

- ・健康寿命は千葉県、全国平均と比べても高い
- ・前期高齢者の割合が高く、一人あたり年間医療費は増加傾向
- ・医療費の中で大きな割合を占めるのは生活習慣病
- ・生活習慣病を重症化させないことが医療費の伸びを抑制できる



【計画全体(保健事業全体)の目的】

生活習慣病の発症及び重症化予防を図り、医療費適正化を目指す

目的達成するために6つの目標を設定

- ①特定健康診査受診率を高める
- ②特定保健指導の実施率を高める
- ③生活習慣病の重症化を予防する
- ④生活習慣病の発症を予防する
- ⑤歯科健康診査の受診率を高める
- ⑥その他、医療費適正化事業の推進
 - ・ジェネリック医薬品の普及率を高める
 - ・重複・多剤投与者へ適正受診・服薬を促す
 - ・がん検診の受診率を高める

6つの目標達成のために
個別の保健事業を設定

(一部抜粋)

各種事業実施により令和11年度までに

特定健康診査受診率 **40%** に向上

(令和3年度は32.2%)

特定保健指導実施率 **23%** に向上

(令和3年度は16.9%)

【拡充・新規事業】

拡充

- ・特定健診受診率向上に向け、本市で行う健診以外の健診結果の取得のため各種団体への周知を図る

新規

- ・特定健診の新規受診対象者となる40歳被保険者への周知とインセンティブを付与する
- ・地区別受診状況分析に基づき、受診行動を促すための健康教育を実施する
- ・歯の喪失は食の偏りや生活習慣病のリスクを高めるため、歯科保健事業を単独の目標、指標として新たに記載して事業を推進する

詳細は 第3期習志野市国民健康保険データヘルス計画・習志野市特定健康診査等実施計画(第4期)(案)をご覧ください